

# 1 人生各期にわたる教育目標

乳幼児期 (0歳～5・6歳)	児童期 (6・7歳～11・12歳)	青年期	
		前期 (12・13歳～14・15歳)	後期 (15・16歳～22・23歳)
	1		
	郷土の自然や文化に親しみ、そ		
	P22		P36
2		3	
動植物を愛し、自然に親しむ豊かな心を養う。		自然を敬い、感謝の気持	
P16	P22～23		P36
	4	5	
	いろいろな運動を楽しみ、体力を身につける。	スポーツを通して心身を鍛え、自らの健康管理ができる。	
	P23		P37
7		8	
健康・安全に必要な基本的な生活習慣や態度を身につける。		交通安全のための習慣を身につける。	
P16～17	P23～24		P37～38
12	13	14	
日常生活の中で、社会的に望ましい習慣や態度を身につける。	社会の一員としての自覚をもち、社会的態度を身につける。	個人または団体の利害だけにとらわれず、	
P17	P24	15	P38
		社会の一員としての役割を自覚	
			P38～39



重点教育目標（市民一人ひとりと行政が一体となって、早急に取り組むべき目標や、特に重視していくべき目標として10の目標を取り上げたものです。これらは、自らの目標を立て実践していくための参考にしていただくものです。）

壮 年 期		高 齢 期 (60歳以上)	教育目標 内容の柱
前 期 (23・24歳～42・43歳)	後 期 (43・44歳～59歳)		
の 保 護 ・ 振 興 発 展 に 努 め る 。			郷土の自然や文化の 愛護と振興
	P54	P72	
ち を 育 て る 宗 教 心 を 養 う 。			健康・安全の保持増進
	P54	P72	
6	スポーツ、レクリエーションに親しみ、 健康の増進に努める。		健康・安全と体力の 保持に努める。
	P55		
9	健康・安全な生活環境づくりに努める。		
	P55～56		
10	子供の健康・安全な生活態度を育てる。		
	P56	P73	
11			
全体との調和を図っていくことができる。			社会連帯感の育成
	P57		
し、責任ある言動をとる。			
	P57～58		
16	地域の集団活動に積極的に参加し、自らの役割を果たす。		郷土の自然や文化の 愛護と振興
	P58	P73～74	
17	時間を大切にし、時刻を守る。		
	P58		

足利市の教育目標

乳 幼 児 期 (0歳～5・6歳)	児 童 期 (6・7歳～11・12歳)	青 年 期		
		前 期 (12・13歳～14・15歳)	後 期 (15・16歳～22・23歳)	
<p>23 日常生活の中で善悪の区別がつけられる。 P17～18</p> <p>26 友達のだれとでも、積極的に仲よく遊べる態度を身につける。 P18</p>	<p>18 友達と互いに協力し合うことができる。 P24～25</p>	<p>19 相手の立場や気持ちを理解し、温かい心で人に接することができる。 P39</p>	<p>20 友情の尊さを理解し、友達との交際の仕方を身につける。 P39～40</p>	
	<p>24 道 徳 的 な 態 度 を 身 に つ け 、 実 践</p>			
		<p>P25</p>		<p>P40</p>
		<p>27 よりよい仲間づくりをするために、不合理な差別や偏見をもたないで生活することができる。 P26</p>	<p>28 同和問題をはじめ、人権問題を正しく理解し、不合理な差別や偏見のない民主的な人間関係をつくることに努める。 P40～41</p>	
		<p>30 奉仕活動の大切さを理解し、積極的にその活動に参加する。 P26～27</p>		<p>P41</p>
		<p>32 敬 老 の 精 神 を 身 に つ け 実 践 す る 。 P27</p>		<p>P41～42</p>

1. 人生各期にわたる教育目標

壮 年 期		高 齢 期 (60歳以上)	教育目標 内容の柱
前 期 (23・24歳～42・43歳)	後 期 (43・44歳～59歳)		
21 自分と異なる信条・宗教・主張などを理解し広い心で接することができる。 P59		22 若い世代の人たちの立場や気持ちを理解し、温かい心で人に接することができる。 P74	社 会 連 帯 感 の 育 成
す る こ と が で き る 。 P59			
25 子供に日常生活の中で善悪の区別がつけられるようにする。 P59～60			
29 同和問題をはじめ、人権問題を正しく認識し、不合理な差別や偏見のない社会の実現に努める。 P60		P74～75	
31 奉仕を通して生きがいをもてる。 P61		P75	
33 子供に敬老の精神を育てる。 P61			育 成 よ き 家 庭 人 の

足利市の教育目標

乳 幼 児 期 (0歳～5・6歳)	児 童 期 (6・7歳～11・12歳)	青 年 期	
		前 期 (12・13歳～14・15歳)	後 期 (15・16歳～22・23歳)
	34 男女が協力して、よりよい家庭を築く生活態度を身につける。 P27～28	35 男女が互いの人格を認め合い、望ましい交際の仕方を身につける。 P42	36 結婚の意義を理解し、健全な家庭生活を営む態度を身につける。 P42～43
		38 家族が互いに尊重し P43	
	39 家庭や地域で行う行事に積極的に参加する。 P28		P44
41 人格の基本となる望ましい性格を身につける。 P18～19	P28～29		
			43 職業人として P44
			44 職業人として P44～45

1. 人生各期にわたる教育目標

壮 年 期		高 齢 期 (60歳以上)	教育目標 内容の柱
前 期 (23・24歳～42・43歳)	後 期 (43・44歳～59歳)		
<p>37</p> <p>性について正しい理解をもち、家庭において指導することができる。</p> <p>P62</p>		<p>P75～76</p>	よ き 家 庭 人 の 育 成
<p>合 い 、 明 る い 家 庭 生 活 が で き る 。</p> <p>P62</p>			
<p>40</p> <p>よい家風を受け継ぎ、さらに新しい家風をつくりあげていくことができる。</p> <p>P62～63</p>			よ き 職 業 人 の 育 成
<p>42</p> <p>子供の人格の基本となる望ましい性格を育てる。</p> <p>P63～64</p>			
<p>の 自 己 研 修 に た え ず 努 め る 。</p> <p>P64</p>			よ き 職 業 人 の 育 成
<p>の 専 門 的 技 能 や 資 格 を 身 に つ け る 。</p> <p>P64～65</p>			

足利市の教育目標

乳 幼 児 期 (0歳～5・6歳)	児 童 期 (6・7歳～11・12歳)	青 年 期	
		前 期 (12・13歳～14・15歳)	後 期 (15・16歳～22・23歳)
			45 職業を通 P45～46
	46 勤 労 の 尊 さ を 理 解 し 実 践 す る 。 P29		P46
		47 正しい職業観に立ち、自分に合った職業を 選択するための能力を身につける。 P46～47	
		50 資 源 の 開 発 と 活 用 を 図 り 、 P47	
51 身近な事物現象に 興味・関心をもつ。 P19	52 基礎的な知識や技能を習得し、自ら学びとる態度を身につける。 P29～30		P47～48
53 基本的な生活行動 を自分の力で進んで 行う態度を身につけ る。 P20	54 基本的な生活習慣を 身につけ、自ら考え正 しく判断し行動するこ とができる。 P30～31	55 日常生活の諸問題に主体的に取り組み、自ら 解決していく態度を身につける。 P48	
	58 自己をみつめ、望ましい生活をしようとする 態度を身につける。 P31		P49
	59 困難にくじけず、ね ばり強くやり遂げる態 度を身につける。 P31～32		60 将来を見通し P49～50

1. 人生各期にわたる教育目標

壮 年 期		高 齢 期 (60歳以上)	教育目標 内容の柱
前 期 (23・24歳～42・43歳)	後 期 (43・44歳～59歳)		
して生きがいがある。			よき 職 業 人 の 育 成
	P65		
48		49	主 体 的 な 生 活 態 度 の 育 成
自分の仕事について家族に理解させる。	P65～66	再就職では、身につけた知識や技能を生かすことができる。	
産業の発展に努める。			
	P66		
56		57	
社会の変化に対応できるため、つねに学習し創意工夫に努める。	P66～67	高齢者としての経験を積極的に生かすことができる。	P76～77
て計画的な生活をする。			
	P67		



足利市の教育目標

乳幼児期 (0歳～5・6歳)	児童期 (6・7歳～11・12歳)	青年期	
		前期 (12・13歳～14・15歳)	後期 (15・16歳～22・23歳)
61			
ものを大切にし、資源を有効に			
P20	P32		P50
	62	余暇を有効に過ごす。	
	P32～33		P50～51
	64	身のまわりの情報を整理し、活用する能力を身につける。	
	P33		P51
	67	日本及び世界の国々に対する関心と理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高める。	
	P34		P51～52

1. 人生各期にわたる教育目標

壮 年 期		高 齢 期 (60歳以上)
前 期 (23・24歳～42・43歳)	後 期 (43・44歳～59歳)	
活用することができる。		
63	P67～68	P77
進んで計画的に余暇を活用する。		
65	P68	P77～78
情報を的確にとらえ、自ら正しく判断し、活用できる。	P69	66 高齢者としての役割を認識し、情報を若い世代に伝えることができる。 P78
68	日本に対する愛情を深めるとともに、世界的視野に立って広く考えることができる。 P69～70	
69	国際社会における郷土の産業の果たす役割を正しく理解できる。 P70	70 国際感覚の上に立って、世界の高齢者の生き方を学ぶことができる。 P78～79

教育目標 内容の柱
主体的な生活態度の育成
国際社会に生きる日本人としての自覚

※ 凡例

番号 … 教育目標番号

教 育 目 標

P〇～〇

教育目標、達成目標、具体策、  
目標達成の場とのかかわり 掲載ページ